

高陽東高等学校の特色ある授業の紹介（2学期・11月分）

「郷土の風土と文化」（地歴・公民科）

17回：令和元年11月5日（火）3～4限

「日本文化 ～水引と結納～」

講師：株式会社福原結納店 三宅珠美 先生

「水引」は名前を知らなかったが、見たことはありました。しかし、これまで、特に気に留めることもなく、見過ごしていました。結び方にも様々な種類があるほか、結び方などに意味が込められていることを学びました。とても日本らしい発想であり、取組みだと思いました。「結納」には千年以上の歴史があることに驚きました。こちらもある意味とても日本らしい儀式であることを教えて頂き、大切に残していくべきだと感じました。



18回：令和元年11月12日（火）3～4限

「広島県の河川文化①」

講師：広島県立歴史民俗資料館 葉杖 哲也 先生

広島は「水の都」とも呼ばれ、多くの川が流れています。古い時代から「川」は人々の生活と密接に関連していることを学びました。生活用水としてや流通経路としてなど、様々な形で古くから生活のそばにあり続けていたようです。しかし、現在は私たちの生活からは遠ざかりつつあるように感じました。まちがいなく「川」は広島県の宝に違いないので、もう一度、「川」と「郷土」を見直してみたいと思いました。三次の妖怪伝説は、初めて聞きました。「稲生物怪録」はストーリーだけでなく、登場する妖怪たちはとてもユニークで、現代の「漫画」にも十分通用するようなキャラクター性を感じました。世界的に有名な日本の「マンガ」の原点を見たように感じました。



19回：令和元年11月19日（火）3～4限

「広島川の文化②」

講師：広島県立歴史民俗資料館 葉杖 哲也 先生

「水の都」と称される広島には多くの河川が流れ、古来より人々の生活と密接に関わっていたことを前週に学びました。今日は、「川の恵み」鮎を調理していただきました。鮎を焼いたのち、鮎と一緒に土鍋による炊飯をして、「鮎飯」を作りました。とても香ばしく、おかずがいらぬほど食べ応えがありました。調理は決して難しいものではないので、家でもやってみてみたいと思いました。



20回：令和元年11月26日（火）3～4限

「広島県の地勢～中山間地の可能性～」

講師：木こり屋 BUN BUN BAUM

宇都宮 雪代 先生

広島県域は全国的にも「林野地」が多い土地柄として有名であることを前回の講義で学びました。県域の7割を占めるこの林野地が何かを生む場所に変われば、大きな変化をもたらすに違いありません。また、このことは中山間地域が抱える「過疎化」についても解決の糸口になる可能性があるように思います。郷土広島のこの地勢を武器に変えることができなかつたかと思ひました。今日は、間伐材や松ぼっくりを使って、「クリスマススワッグ」を作りました。

